

令和4年度第1回大郷町総合教育会議 会議録

日時：令和4年11月28日（月）

午後1時30分～

場所：大郷町役場3階第3委員会室

【出席者】

（教育委員会）

教育長・武藤職務代理・高橋（幸）委員・高橋（賢）委員・及川委員

菅野学校教育課長・赤間社会教育課長・金指導主事

（町長部局）

田中町長・遠藤総務課長・近藤補佐

【欠席者】なし

1. 開 会 【進行】 遠藤総務課長 (1:30)
2. あいさつ 田中町長
(省略)
3. 議 題 運営規則第3条により町長が議長となり進行

議 長 「(1) 令和4年度全国学力・学習状況調査から見える大郷町小6児童・中3生徒の実態」を事務局から説明願う。

指導主事 (令和4年度全国学力・学習状況調査から見える大郷町小6児童・中3生徒の実態について概略を説明)

議 長 令和4年度全国学力・学習状況調査から見える大郷町小6児童・中3生徒の実態について質問・意見があれば願う。

高橋（賢）委員 小学校から中学校になった時の理科に関するデータについて。その学力に、どうやって持って行ったのか。理科の先生の指導力という話あった。失礼かもしれないが、先生によって指導力が違うのは当然と思う。子どもたちが興味を持つ指導内容が、どう成績に繋がっているのか分析すべき。他の先生や教科に活かす、学校の取り組みはあるのか。

指導主事 小・中ともテスト結果から課題を洗い出し、分析し、課題を減らすために、こういう対応・対策で授業を進めていくというものを作っている。それに沿って、小・中学校も、子どもたちに分かる授業を進めていく形が1つ。もう1つは、校内研究。子どもたちの課題から見て、例えば、主体的な姿が見えないとか、考える力を高めるとか、基礎基本を上げる等のテー

マで、毎年、教員同士が、互いに授業を見せあって、それについて話し合っている。理科は教科の特性があり、まねることは出来ないが、先生の良い所を話し合っ、中学校の場合は他教科に活かせることをやっている。全国どこでも同じことをやっているが、すぐ結果は出ない。数字としては表れにくい。

教育長 中学校の理科の先生は、土日のいずれか出勤して、次の週の授業準備をしている。授業準備に相当の時間をかけている。仮実験しながら、授業を組み立てようとしている、非常に熱心な先生。働き方改革に逆行して、休日も教材研究に充てているようだ。授業作りに定評がある先生。

議長 中学校の理科について、生徒が得意としていることを認識しているのか。指導主事 生徒にも公表している。自分は理科の成績が良いとか、実力テストの平均点が高いから、そういう意識はあると思う。

武藤委員 先生の力によるところが大きい。他教科の分析はどうか。幼稚園くらいの時は、ほぼ同じに見える。いざ学びに入ると、段々理解できずにつまづくようになる。どんなきっかけで、関心がなくなったり、やる気がなくなるのか。低学年から気を付けることはないのか。

議長 義務教育で1番大事なのは国語ではないか。国語が出来る子どもは、数学も多少理解力があるのではないか。パソコンだけだと、文章書けと言われても書けないのではないか。パソコンでは文章を作れるが、書けと言われてたら、時間がかかるのではないか。自分は必要になってから勉強した。ある意味、その方が忘れない。義務教育という制度は、子どもを持つ親の方に問題があるのではないかと思っている。そう思っても現場は変わらない、難しい、やっかいな社会。ちょっと強いことを言うと、働き過ぎるなと言われる制度の中で、子どもたちに教えなければならない。3時間を2人の先生で教えなければならないとなるのでは。どこも働き方改革で大変。経営者側と労働者側の折り合いの付け方が難しい。役場も同じ。ちょっと強く言うと、メンタル弱くして休んでしまう傾向がある。義務教育の中で、必ずしも学力だけが全てではないが、一般の社会人として生活する上で、事欠かないくらいの知識は持たなければならないと思う。最高のものを求める子どもと、この体で勝負するという、アスリートのような子どももいる。進路指導も大変だと思う。

教育長 データは保護者に詳らかにして共有している。どんどん発信してもらっている。学年PTA辺りで議論するような形に持って行って欲しいとお願いしている。残念ながら、コロナで出来ないこともある。P4の概要をみて嬉しかったことは、小6の国語・算数・理科に対する関心が高いこと。勉強の習慣はないが、関心を持っている。中学校で伸びる要素ではないか。大郷の子は素直だと、どの先生も言う。もっとわかる授業を子どもたちに提供してと言っている。素直さにあぐらをかかず、それに合った分かる授業を展開して欲しいとお願いしている。

議長 ある程度の平均線を引いた時、それ以上はDNA、血統の関係だと思う。

いくら言っても勉強しない、逆に、放っておいても勉強する。

及川委員

学習は興味からと思う。スマホと家庭と学習の関係。親としては、勉強して欲しいが、どうしてもスマホ。今の時代は、通信しながらコミュニケーションを取っている。家庭でみんな悩んでいると思うが、突破口見えない。今後どうすべきか。個人的にはモデル事業をするのはどうか。スマホをやり過ぎて困っている。言うことを聞かない。事業として、データを取る。スマホ等やめて、チャレンジしませんか。モデルとしてやってみないか。そういう人たちを引っ張る方法はどうか。どうしてもスマホに向いてしまうから、ゲーム感覚で楽しみながらチャレンジするのもいいのでは。子のゲーム、いくら言っても收拾つかない家が多いと思う。何かアクションを起こさないと、このままではないか。

高橋（賢）
委員

子どもが中3。スマホがないとコミュニケーション取れない。どこまで止めるべきか分からない。データにスマホのルール等あるが、ルールの内容で変わる。明らかに顕著だと思ったのは、朝ご飯と、スマホをやる時間による学力の関係。大きく学力を上げるには、何か思い切ったことをやらないと無理ではないか。それであれば、顕著な朝ご飯とスマホ時間を減らす部分に特化した方が、1つの方向性になるのではないか。ゲームやSNSの時間と学力は比例していなかった。朝ご飯を食べているかどうかの差と、スマホを30分やっている場合の差は、分かりやすかった。そこだけでもピックアップしてやることも、1つの手ではないか。家庭や子どもにも、データが示されている。結果が出るまでには時間がかかると思う。中学校より先の人生の方が長い。そっちに役立てばいいのではと思う。生徒や親にデータを伝えた上で、成績にはすぐ表れなくても、朝食を食べる習慣や、スマホを減らす習慣は、改善が見られているのかというデータが欲しい。何度かやっている中の1つかと思うが、今後親に伝えていく中で、そういった改善が見られれば、中学校のうちに成績が少ししか上がらなくても、高校以降でも生活習慣が続けば、上がっていくのではないか。

高橋（幸）
委員

スマホに関して、個人的には使えなければならぬと思う。ない時代を知って育っている自分たちと、生まれた時から周りにある今の子どもたちは違う。大人になって、必ず使えないと困るスキルの1つだと思う。今問題なのは、使い始めが恐らく早すぎる。誘惑が多く、自分で制御できない時点から使い始めて、楽しさに没頭して、勉強が疎かになるというイメージで見ていた。中学校では、8割9割がスマホを持ち始めていると思う。時代の流れとしては止められない。家庭で分かりやすく教えられるのは、30分から1時間に抑えると、学力が保たれるというデータがある等伝えること。スマホを使う時間を、各家庭に合わせて約束すると言われても、それは2時間ならいいのか。スマホは30分でもゲーム3時間では意味がない等、基準は誰も分からない。30代、40代の大人は、それが無い時代の人。分からないまま、子どもを指導しなければならない。いつ子どもに与えるのか、自分でも悩みながらやっている。P22は全て6年生か。

- 指導主事 そのとおり。違う世代ごとの6年生。
- 高橋（幸）委員 先日、持久走を見た。初めて6年生の活動を見て気になったことがある。以前は来賓として、運動会や学芸会を見る機会もあったが、最近はコロナでない。まともに6年生と意識して見たのが先日の持久走。まとまってダラダラ走っていた。そういう年頃か。走ることが嫌いな子どもたちだったのか。今までの行事、一生懸命やっていたのか気になった。学校生活そのものに覇気がない。学力だけの問題ではない気がする。一瞬しか見ていないので、決めつけは良くないが、今の6年生は大丈夫かと感じた。その辺も含めて、学力にも影響するのではないか。
- 武藤委員 子どもが考える力を引き出す必要がある。それがないと、スマホの制限をしても無理ではないか。その子どもがどう考えるか。その力を植え付けてやらないと、将来的に、社会生活でも何でも、全てに当てはまること。そのために、教育として何が出来るか。何もない状況で、自分が考えてやらなくてはならない場合を訓練させる必要がある。よく孫も、中から連れ出して、外で遊ばせたりする。外で体験させたり、その場で考える力を養わせる。キャンプや地区のお泊り会等、以前はあった。そういう体験が効果を生むのではないか。昔の人間の考えかもしれないが。
- 及川委員 いいと思う。高橋幸也委員の話と関係するが、自分も持久走を見た。持久走は、自分を自分で奮い立たせて応援するものと思っていた。疲れたら歩いていいという応援の仕方をする親がいた。カルチャーショックを受けた。価値観の違いがそこまでであると、家庭環境も教育環境も違う。多様性すぎる。歩かないように頑張っている子どもたちに対して、外野の応援がそれでいいのか。
- 高橋（幸）委員 5年生の方が一生懸命走っていた。早くても遅くてもいい。物事に対して一生懸命になることが大事だと思う。
- 議 長 持久走大会だから、順位をつけないのか。疲れたら歩いてもいい…病弱な子どもならまだしも、どういうことか。持久走大会に出られるような状態でないのに出たから、無理するなという意味なのか。
- 及川委員 自分が苦しくて大変だった。自分は歩きたかった。だから歩いてもいいよという感覚。切り離して考えて欲しいが、そういう家庭も少なからずある。基準は分からないが、過保護。可能性あるなら厳しくすべき。
- 議 長 そういう環境で育つと、登校拒否もいいよとなるのでは。教育現場も大変。
- 高橋（賢）委員 限界を自分で低くしている。持久走は、どこまでタイムを縮められるか、自分の限界への挑戦だと思う。親も一緒に限界値を低くしている。将来的に仕事でも、すぐ病むのはあるのではないか。
- 及川委員 野外活動等、子どもだけで考えさせて。将来的には自ら自立できるような考えを、そこで育めるような野外体験も必要。スマホの優先順位が下がるような、自立できる大人になるような教育を、親もしなければならない。
- 武藤委員 私立でやっている所があるのでは。結果その子どもたちは伸びると思う。

ここで、そっくり同じ事は無理だが、効果を出している例はあると思う。親も理解してやっている。データによると、学者は脳がやられると言っている。

高橋（賢） 委員 何かに興味を持てば勝ちだと思う。最初に戻るが、理科に関心があって、実際に成績もいい。のめり込めるものがあればいい。学力であればなおいいが、世の中で成功する人は、必ず学力が高い訳ではない。何か1つの強みがあればいい。その興味をどう持たせるか。理科の先生がどう持たせているのか。ヒントになるのでは。ゲームは面白いから長くなる。面白さを学力に引き込めないのか。親の力だけでは無理。学校の先生にもお願いしたい。学力は将来的に言えば人間力。勉強出来るからと言って、必ずしも会社の役に立つ訳ではない。脳に与える何かは、学者でも分からない。スマホ時間や朝食を取ることが学力に影響するのは、データ上確か。何か出来ないかとは思う。

議長 バランスの取れたとれた子どもを作ることは大変。難しいが、やらなければならない。吉田川に、国交省の事業でかわまちづくりを立ち上げた。小さいグラウンドでサッカーや野球をしていた子どもたちに、今描いている環境が作れたらいい。思い切って発散できる環境を計画している。教育教材として使えるものが出来てくる。学校も家庭も子どもたちも、一緒に環境を作っていきたい。今日のデータで、全国との違いも理解した。少しずつ近づけていける大郷町の教育の方向性を、みんなで理解していきたい。教育も政治も、同じ。双方やる気。中学校の卓球部が、新人戦で全国大会に出場することになった。本当に素晴らしいこと。生徒、指導者、家庭環境。全てに恵まれた。全部そろって初めて出来ること。努力しないと出てこない。今後の教育に大きな光が発進されたと思っている。町の教育を変えるパワーがあると思う。全国大会出場は勇気づけられる。多くの面で優れているということを知りたい。

武藤委員 役場の若い職員に、こういう議論をしてもらって、いろいろな所に派遣してはどうか。先進地のいい所を見て、持ち帰って、ここでやって欲しい。人づくり。そういう仕掛け人を作る。我々年配が考えても駄目。町として考えて欲しい。

総務課長 教育委員会におんぶに抱っこではなく、町長が自ら先頭に立って、町の子どもを、逞しく心豊かに、学力も付くような子育てをしていきたいという思いを、教育委員会の皆さんに伝えるのが、この会議の趣旨の1つだと思う。施設、整備を充実させる側として、皆さんの意見を聞きながら、子どもたちのためになるように進めていきたい。今の若い職員はメンタルが弱いという話あった。30歳未満は特にそういう傾向ある。いろいろな機会をみて、派遣や研修等、積極的に活用していきたい。若い職員を温かい目で育てて欲しい。40歳くらいになれば、しっかりした人間になるのではないかと思っている。

高橋（賢） 個人的に希望ある。図書館を、人が集まる場として充実させて欲しい。

委員 入りやすい、集まりやすい場所にして欲しい。

総務課長 中学校統合時、教育委員会にいた。小中同じ場所に建てて、連携した学校づくりをするという話が当時あった。費用の問題で現地統合になった。小学校の統合場所も、現地に増築統合された。当時は、学校の中に一般向けと学校向けの図書館を併設し、図書司書もおく。地域の人がいることによって、学校の安心安全にもなるという話もあった。今の小学校も古くなった。いずれ建て替えが必要になる。若い課長に伝えてもらいたい。

議長 役場も老朽化。役場、公民館、図書館。民間も自由に使える場所を、コンパクトシティに作りたい。人口が減っても、他所から来て、何か交流できるような、オープンなスペースを提供する内容で、今までの発想と違う庁舎づくりを、みんなで考えたいと思っている。町民の意見を集約して進めたい。スポーツ振興は川北に集中して、大規模なものが計画されている。川南は役場中心に文化系を集積したい。海洋センターも文化会館も、いずれ古くなって、建て替えが必要になる。野球場周辺を中心に、公共ゾーンとして、町の未来を作っていきたい。それが1番理想ではないかと思っている。皆さんの意見を聞きながら、教育についても、行政として、出来る限り支援していきたい。

4. その他

5. 閉会あいさつ 鳥海教育長 (2:55)